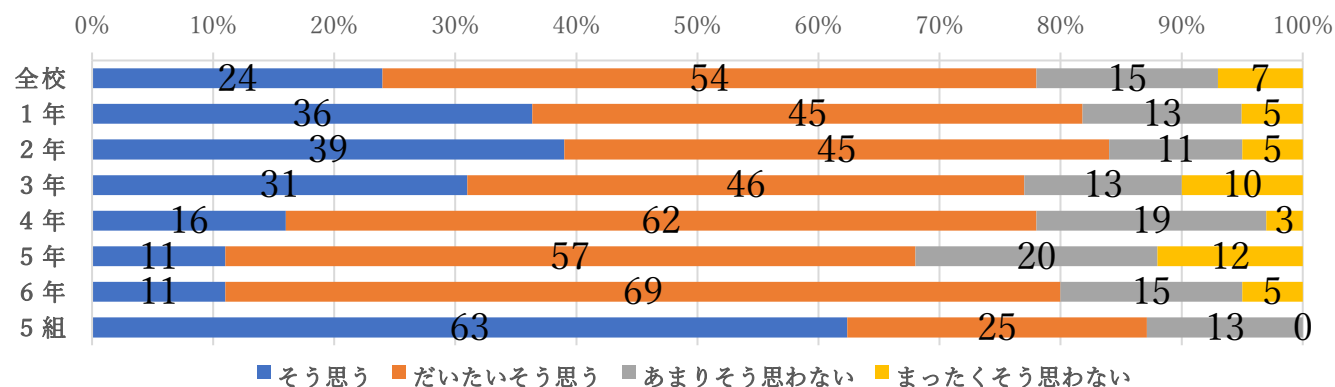


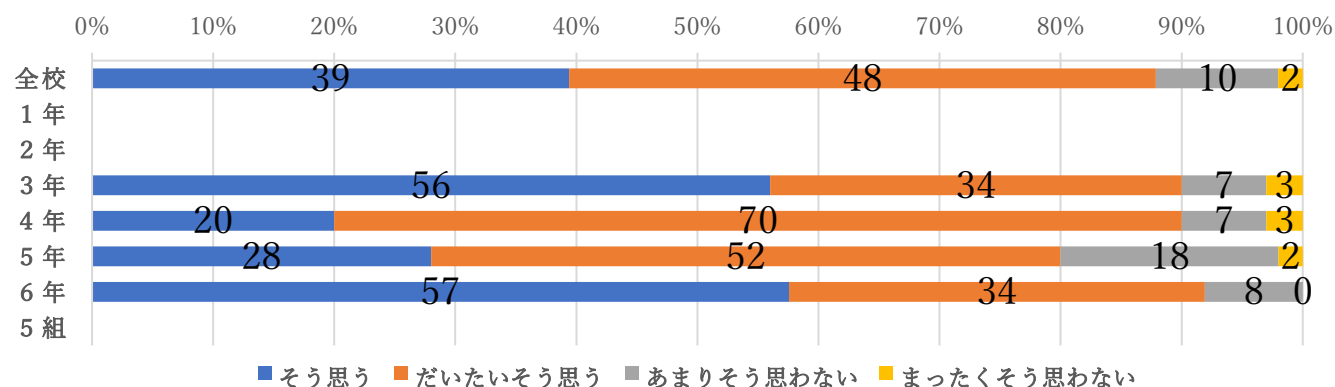
令和5年度 学校評価（児童）集計結果

1 国語の学習は好き/得意だ。



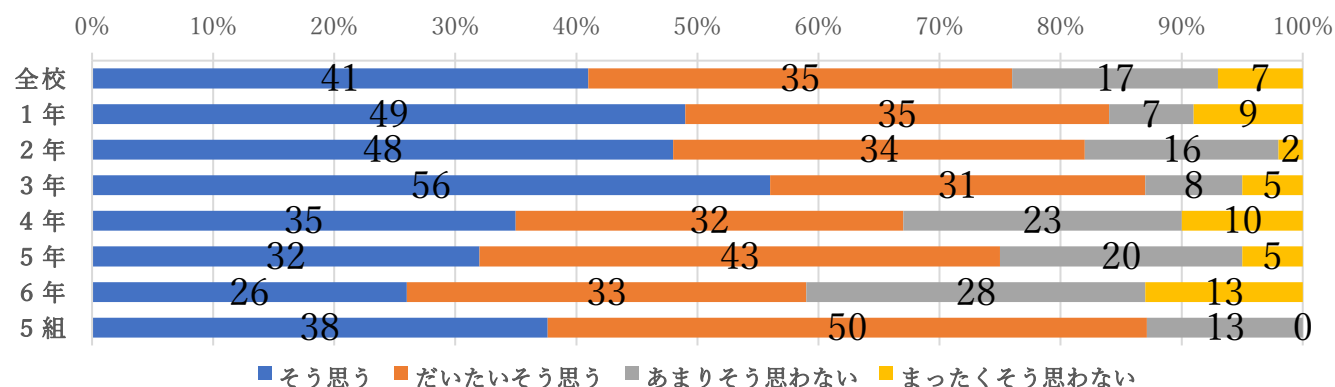
肯定的回答が概ね80%前後となっている。昨年度と比較しても、肯定的回答が増加していることから、各担任の授業が児童の興味・関心を高めているとかがえることができる。否定的回答の理由としては、「漢字が嫌い/苦手」や「文章を読むことが苦手」、「文を基にして考えたり読み取ったりすることが苦手」といったものが多くみられた。今後もさらに、児童の実態を把握して苦手意識を少しでも減らす手立てをとる必要がある。

2 社会の学習は好き/得意だ。



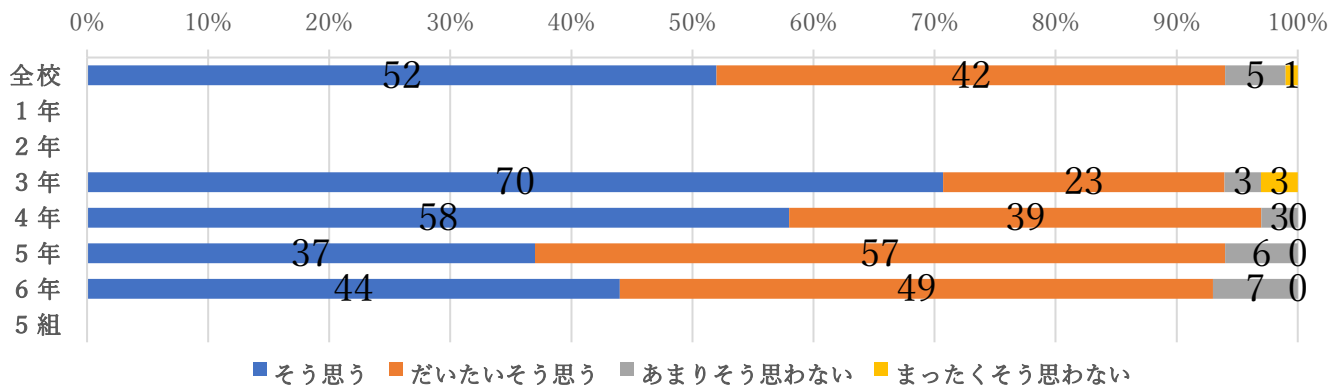
肯定的回答が80~90%近くとなっているため、概ね良好な結果といえる。社会科に関して、昨年度より好結果となっている。否定的回答をした児童の理由としては、「情報量が多く、読み取ること（覚えること）が難しい」「調べ学習が苦手」といったものが多くみられた。

3 算数の学習は好き/得意だ。



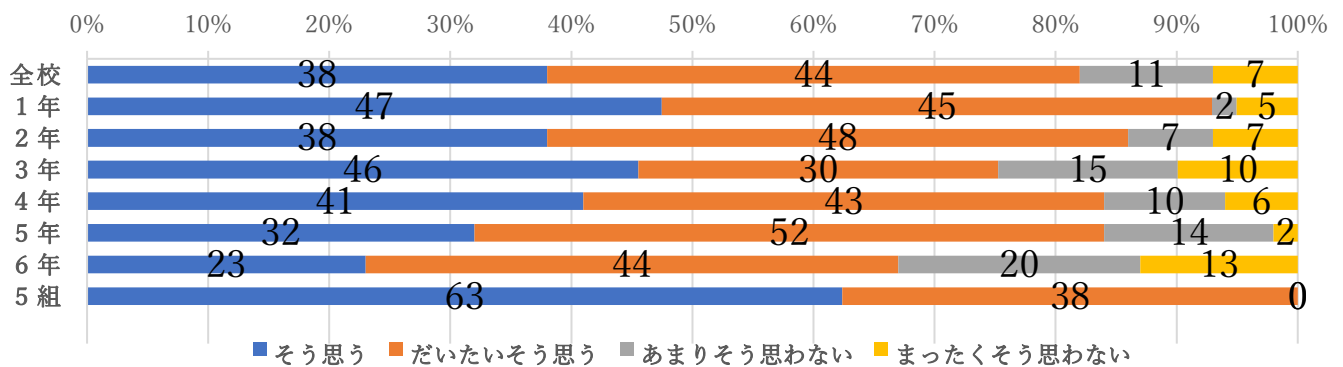
全体で見ると、肯定的回答の割合も高く、昨年度より肯定的回答の割合が増加している。他教科と比較すると、否定的回答の割合が最も大きくなっている。特に高学年になるほど顕著な結果となっている。「計算が苦手/嫌い」といった理由が大半を占めている。引き続き、実態に合わせた授業改善を行いながら、算数が好きと思えるような児童を育てていく。

4 理科の学習は好き/得意だ。



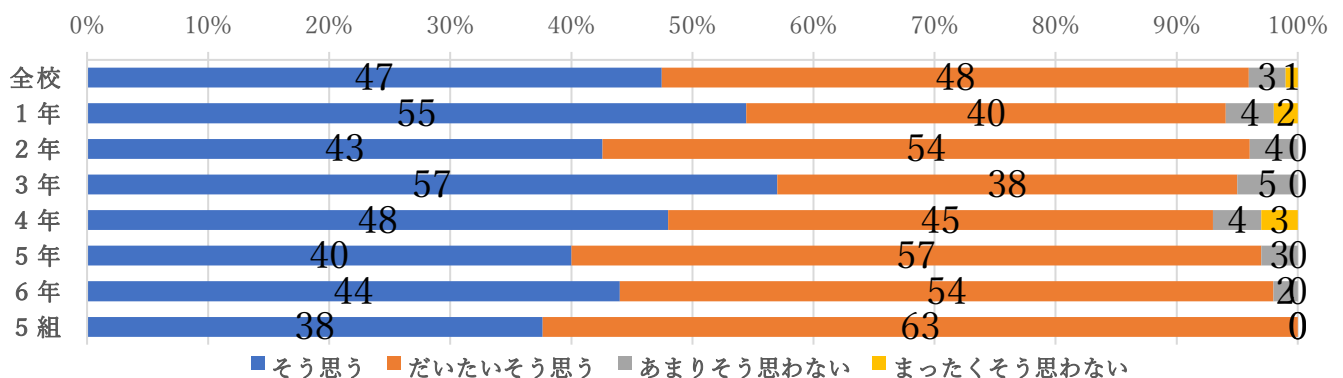
他教科と比べると肯定的回答が最も多い結果となっている。昨年度比較でも、他教科以上に肯定的回答の増加が見られた。否定的回答の理由としても、「虫が苦手」や「実験は好きだが、観察が苦手」との理由が見られる。「実験が苦手」といった理由もあるが、体験的な活動が他教科よりも多いことが好結果につながっていると考えられる。

5 G・Sの学習は好き/得意だ。



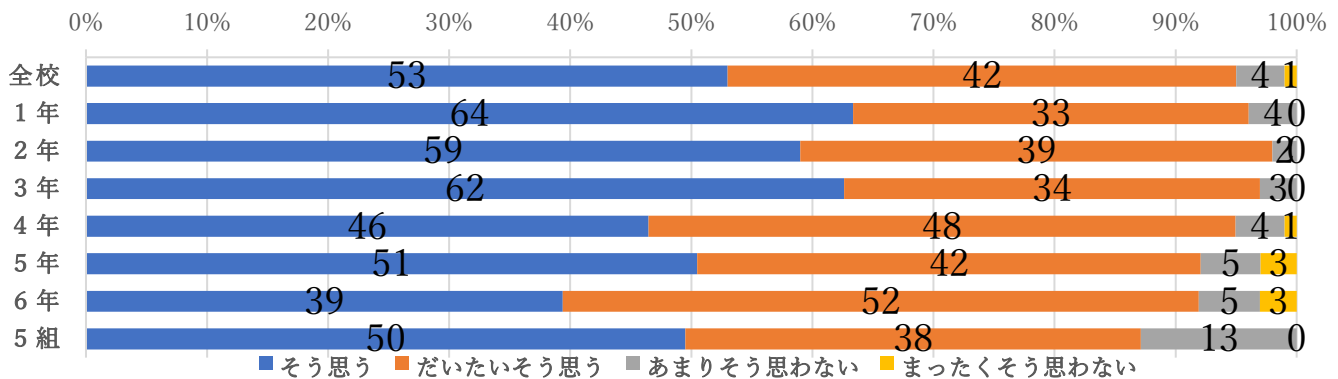
肯定的回答が、概ね80%を超える結果となった。G・Sにおいても、肯定的回答は昨年度以上の結果となっている。否定的回答の理由としては、「英語が苦手」「発音が難しい」「読み聞きができない」等が多かった。確実な手立てとはならないかもしれないが、授業だけでなくGSタイムを効果的に活用し、少しでも苦手意識が払拭できるようにしていく必要はある。

6 学校やクラスのきまりを守って、生活することができるようになってきた。



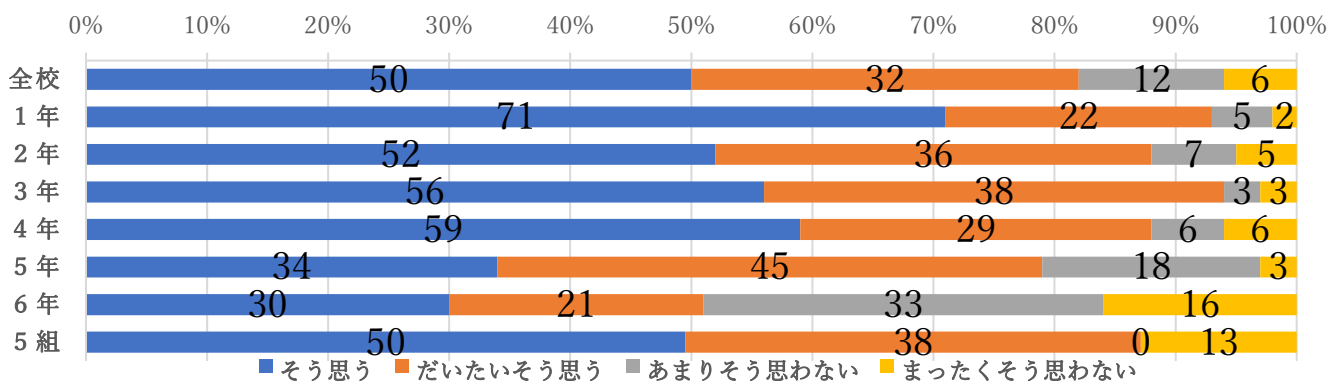
肯定的回答がどの学年も90%以上となっていることから、児童はルールを守って生活できていると感じていることがわかる。事態に合った指導の継続やルールを守ることの意義を指導していくことが重要である。児童自身にも何故ルールを守った生活が大切なのかを自分事として考える時間を設定する等、自主的にルールを守れるように指導していく。

7 友達や先生、地域の方に進んであいさつすることができるようになってきた。



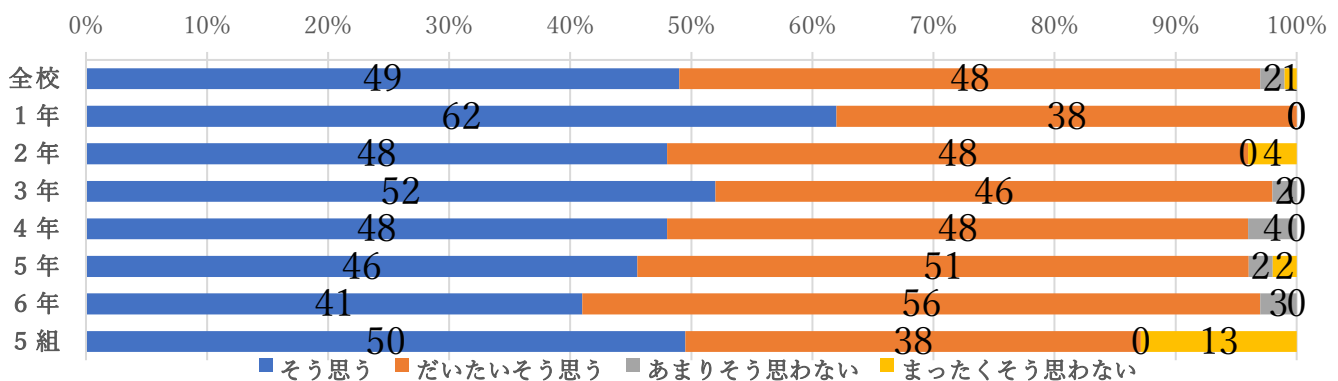
昨年度と比較すると、肯定的回答が大きく増加している。児童自身は、あいさつがよくできていると評価していることがわかる。保護者・教職員の同様項目の結果も好結果となっていることから、全体的にあいさつをしようとする意識が高まっていることも読みとれる。ただし、あいさつすることを意義付けての指導は今後も継続していかなければならない。

8 係や委員会等の仕事がある時以外は、休み時間に校庭に出て元気に遊んだり運動したりできるようになってきた。



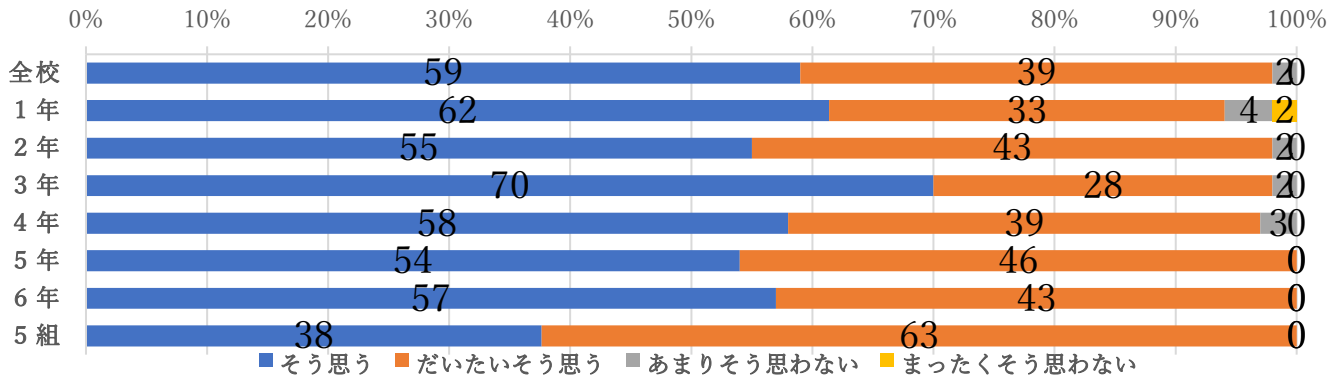
全校的にみると、8割以上の児童が肯定的回答をしていることから、外遊びが好きな児童が多いことがわかる。特に、4年生まではおおむね良好な結果となっている。ただ、高学年、特に6年生となると肯定的回答が非常に低い結果となっている。昨年度の同質集団と比較しても大幅に減少している。「運動が苦手」や「外に出ることが好きではない」といった理由が大半を占めている。

9 健康を意識して生活することができるようになってきた。



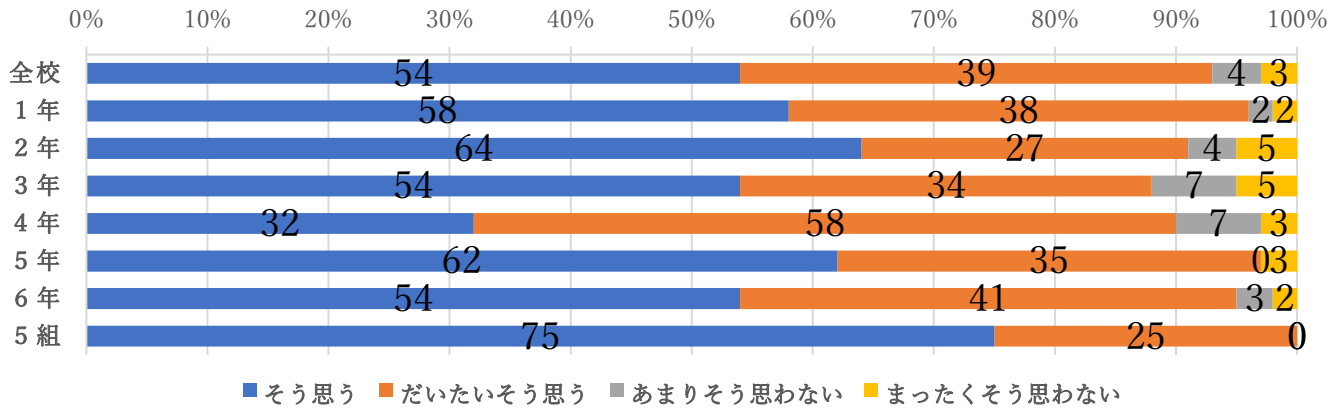
昨年度も好結果ではあったが、今年度は昨年度以上の結果となっている。保健委員会をはじめとする、学校での啓発活動や各家庭での声掛けが結果とつながっていると考えられる。否定的回答の理由として挙げたものとしては、「夜更かしをしている」「早起きしていない」「スマホを数時間しようしている」等、生活習慣に関わるものだった。学年等の実態に合った生活習慣指導が必要である。

10 先生や友達の話をしっかり聞けるようになってきた。



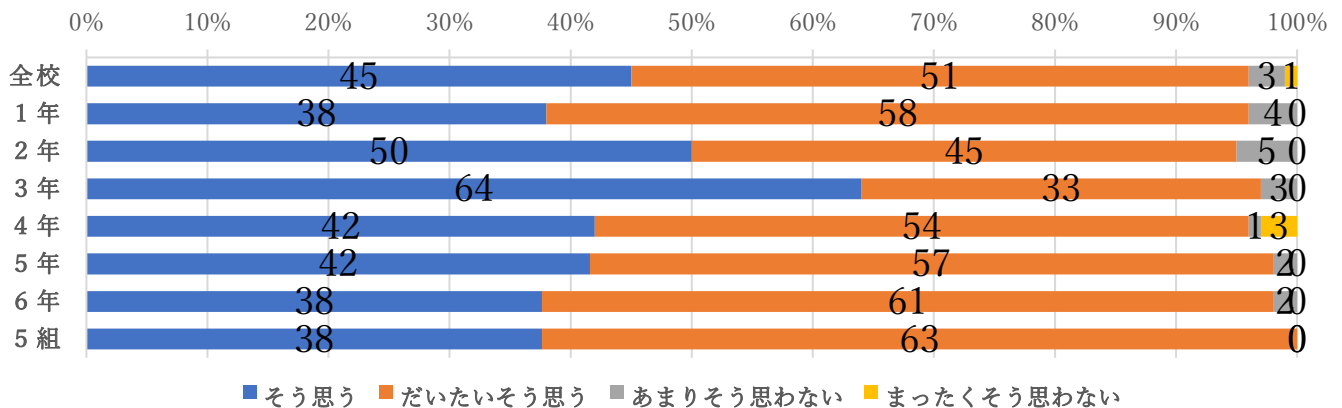
全体でも学年ごとでも肯定的回答が90%以上と高い結果である。昨年度と比較しても同等以上の結果となっている。否定的回答においても、1割未満であることから、児童の話をお聞きとする意識の高まりは感じられる。今後も児童への称賛を欠かさずに、学年相応の聞き方を身に付けられるよう指導するとともに、児童の実態に合わせた話し方や指示の出し方を教員自身も工夫して実践していかねばならない。

11 学校は楽しい。



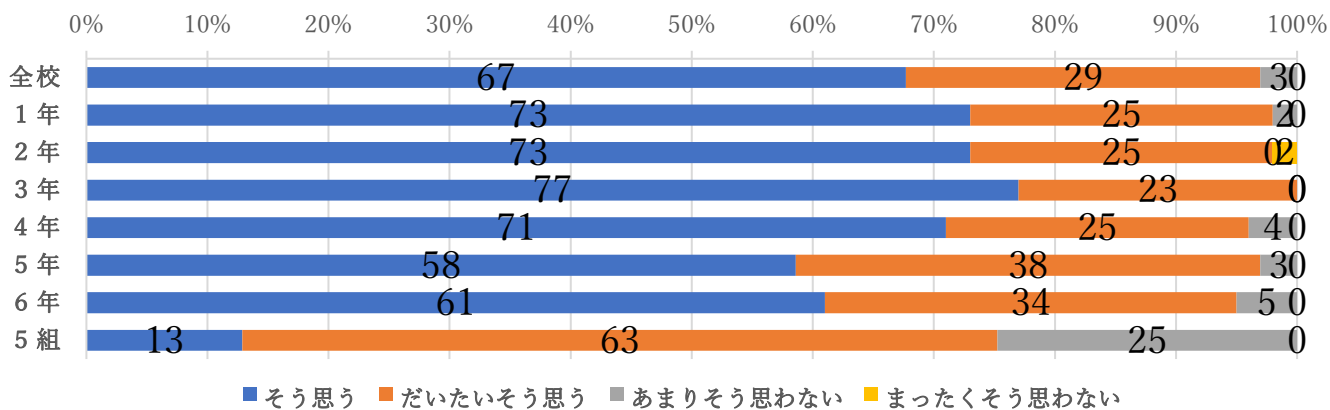
結果としては、全体的に90%前後と高い数値となった。各担任や学年において、児童の実態に合わせた実践をしたり、トラブル等に早期対応したりすることで、児童の不安解消等を行ってきたことの結果だと考えられる。割合は少ないが、否定的回答の理由として、人間関係や学習面（勉強が難しい等）が挙げられている。すぐ解決することは難しい問題もあることが、児童の小さな変化も見落とさずにしていくことや家庭との連携を確実にやっていくことが重要である。

12 学校の授業はわかりやすい。



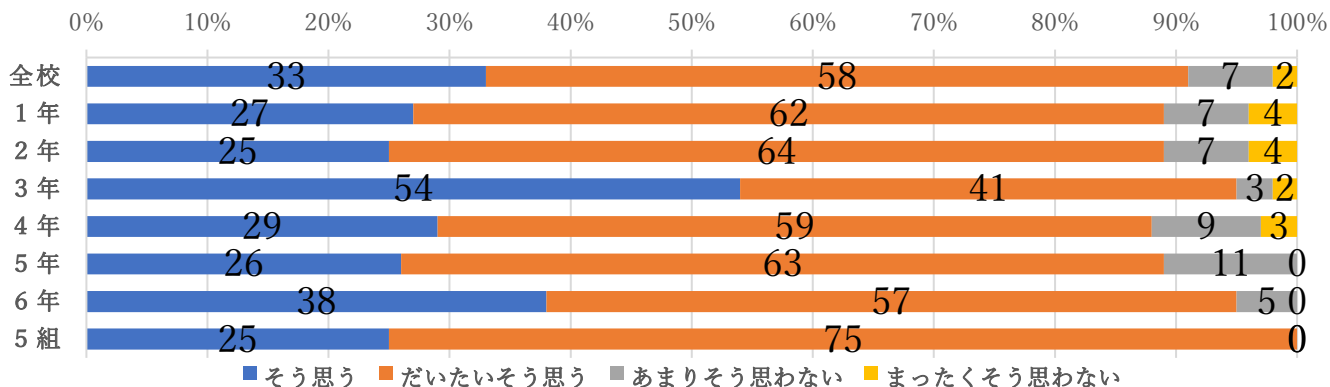
肯定的回答が90%以上と高い結果となり、否定的回答の割合が昨年度と比較するとどの学年も低くなっている。これは、児童の実態に合わせた授業展開を教員が実践している結果とも考えられる。今後も、児童の実態に合わせた授業展開を行うとともに、継続した授業改善を行う必要がある。

1.3 授業中など、タブレットを上手に使えるようになってきた。



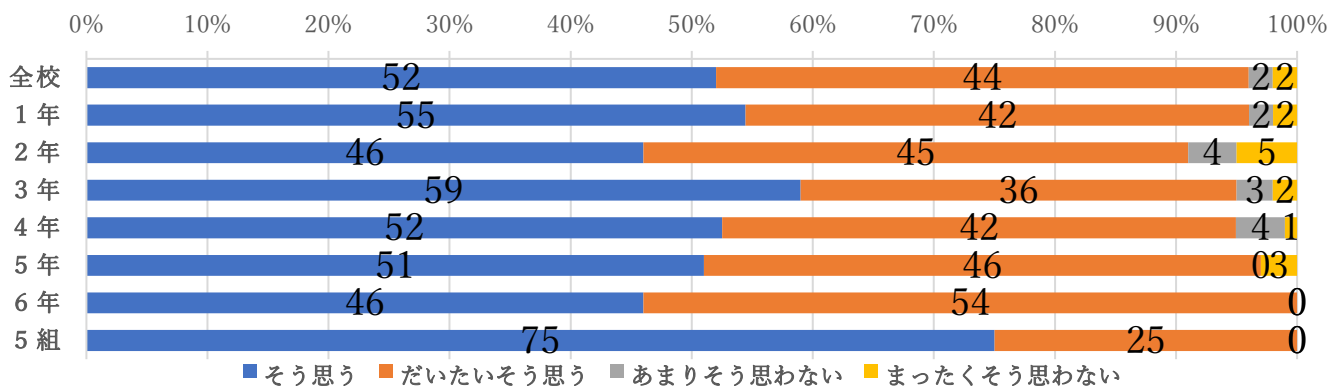
学年による違いはあるものの、昨年度は多くの学年で否定的回答が10～50%と非常に児童自身の評価が低い結果となっていた。しかし、今年度は肯定的回答がどの学年も90%以上となっており、児童自身も自信をもってタブレット活用ができていると考えられる。児童の技能面のフォローを継続して行いながら、より上手な活用ができるようにしていく。

1.4 自分の意見や考え等をクラスや学年、学校に発信することができるようになってきた。



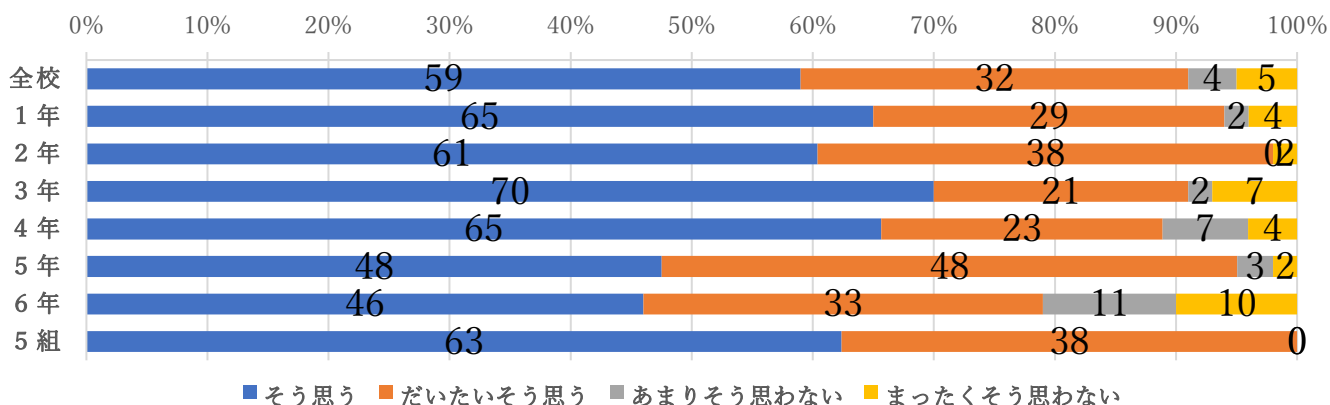
概ねどの学年においても、肯定的回答が90%近くとなっている。学校全体では、昨年度よりも20%近く肯定的回答が増加している。ただ、否定的回答も一定数以上いることから、学年や個の成長や実態に合わせた情報発信の方法等を、教職員側も工夫して指導していかなければならないと考える。

1.5 先生は、あなたの質問や悩みごと、自分の話をよく聞いてくれる。



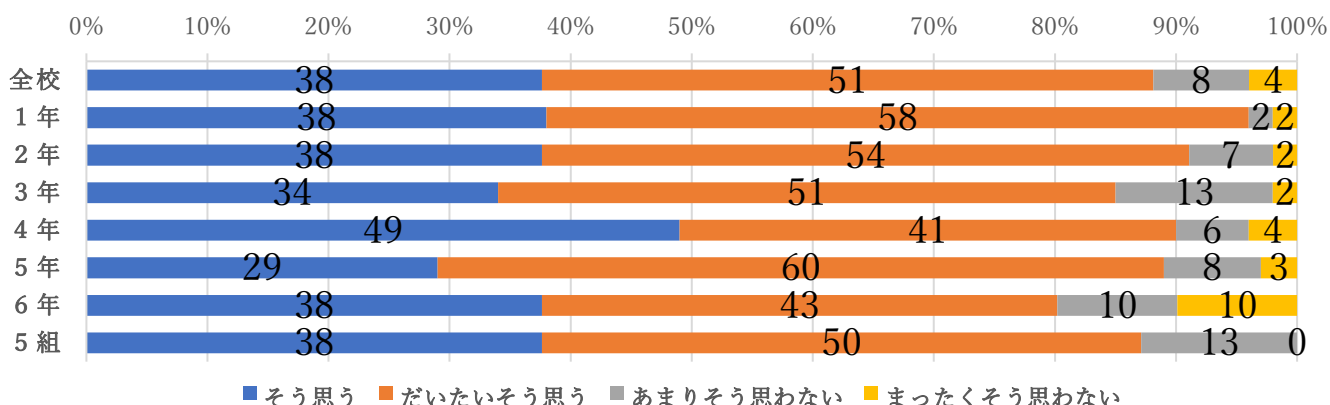
どの学年も肯定的回答が90%以上はることから、多くの児童は教職員の対応に満足しているといえる。「先生が忙しそうだと話しかけると迷惑になりそう」「悩み等がない」といった理由で、否定的回答をしている児童もいる。児童の特性による部分もあるかとは思いますが、相談しやすい環境作りや児童との信頼関係の構築が必要不可欠である。

1.6 将来の夢がある。



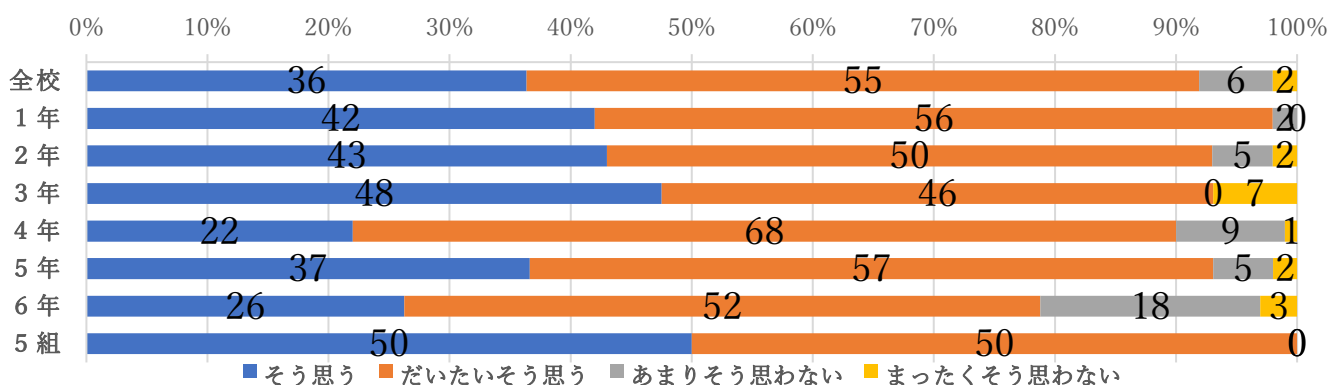
大半の児童は肯定的回答をしている。各学級や学年で、将来の夢につながるような授業や取組を行ってきたことが、昨年度以上の結果として表れてきたのだと考える。その一方で10～20%近くの児童が将来の夢について否定的回答をしている事実もある。主な理由としては、「まだ決まっていない」「考えられない」といったものが多かった。学校生活の中で将来の夢につながるような取組やキャリア教育のより一層の推進が必要である。

1.7 世界や外国について興味が出てきた。



昨年度と比較すると、肯定的回答が20%近く増加した結果となった。今年度、クラスごとに世界に目を向けるような取組を実施したことが大きな要因だと考えられる。しかし、否定的回答が10～20%近くある。引き続き、児童の興味・関心が高まる取組を検討しながら活動を企画・実施していかなければならない。

1.8 地域の人と関わりながら生活している。



昨年度と比較すると肯定的回答の割合が増加した結果である。否定的回答は10～20%で、「地域に興味がない」といった理由が目立った。児童自身も地域で生活している1人であることを自覚してもらえるようにしていく必要はあると考える。